

いま白鷺の“天守閣”がよみがえる

姫路城の最近の改修は 2009 年から 2015 年にかけて行われた。この改修は、その伝統的建築の要素と象徴的な白い漆喰を保存していくため、(現代のものではなく、) 当時と同じ技術と素材を使用して行われた。この改修プロジェクトは合計 24 億円をかけて行われた。

姫路城は 17 世紀終わりの築城以来、何度も改修を経験してきたが、1912 年までには荒廃してしまった。その建造物の多くは劣化し、漆喰は剥げ、色も落ちてしまった。1964 年、初の全面改修が完了し、漆喰壁は再生され、白鷺上は元の美しさを取り戻した。

しかし 2000 年代初頭までに姫路城の壁は再び灰色になってしまった。天守閣の壁と屋根は伝統的な素材である麻繊維、石灰、海藻ペーストなどの混合物を使用して再び塗り替えられた。屋根の瓦はすべて剥がして検査され、屋根が修復された際には、その 80%が再利用された・

耐震補強が地下、1 階、6 階に施され、軒天、破風そして屋根の装飾が完全修復された。

修復の概要

総工費：6 年間で 24 億円

屋根の完全修復（瓦全体の 80%を再利用）

1 階から 5 階までの喰壁の外壁塗り替え

破損した床板と窓の修理

地下、1 階、6 階の耐震補強